

トホクのササゲ栽培方法

発芽適温：25℃前後 生育適温：20～30℃
 土壌酸度：pH6.0～6.5 連作障害；2～3年あける

1. 作物特性

ササゲは地力のない畑でもよく育ち、インゲンと異なり夏の暑さに強く、乾燥にも強い作物ですから家庭菜園では夏場の収穫物としては貴重な品目です。寒さに弱いので地面の温度が十分暖かくなってからタネまきします。つるが伸びますから支柱を立てて誘引します。

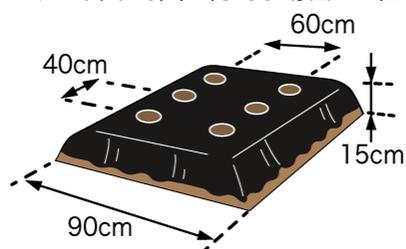
2. 畑の準備

ササゲは連作すると生育が劣りますので他のマメ類を3～4年栽培していない畑を選びます。マルチを張ると雑草防除と地温確保、土壌水分保持に有効です。



3. タネまき

遅霜の心配がなくなり、十分暖かくなってからタネをまきましょう。タネは約2cmの深さに1カ所数粒ずつまき、しっかりと水をやります。ポットで苗を育てる場合は、直径7～9cmのポットで、



深さ2cm位の深さにタネをまきます。本葉2枚頃が植えつけ適期です。

4. 栽培管理・収穫

つるが伸びる前に支柱を立ててネットを張っておきます。つるが支柱の先端まで伸びたら摘芯し、側枝の発生を促します。



追肥は株の状態をみながら莢が成りだしたところから1㎡あたり化成肥料30gを約10日置きに施します。追肥した後は雨水だけに頼らず、定期的にかん水を行えば肥料の効きが良くなります。



品種によって収穫サイズは異なりますが、花が咲き出してから約2週間後から収穫できます。莢の中の豆のふくらみが目立たないうちに収穫します。とり遅れると食味も落ちますから若さや気味に収穫します。十六ささげでは35～40cm、三尺ササゲでは45cm位が適当です。

5. 赤飯ササゲの栽培管理

つるは伸びませんから、ネットなどは不要です。ただし、栽培環境によっては（肥料分が多い時や、曇天が続く場合）つるが少し伸びる場合があります。その場合、つる先を摘み取ればその後は伸びることはありません。



莢が充分黄色くなってきたものから順次収穫します。収穫後は天日に干して乾燥させ、手でもむなどして豆を取り出します。

その後も天日でしっかり乾燥させてから保存します。



栽培例	まく時期												収かく期											
	地域/月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
冷涼地																								
中間地																								
暖地																								



栽培例	まく時期												収かく期											
	地域/月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
冷涼地																								
中間地																								
暖地																								